

港北区の建築探訪

港北区は鶴見川を中心に、田園地帯としての発達や開発など、バラエティーに富んだまちづくりが進んできました。まちの成り立ちに合わせてさまざまな建物が建てられ、大倉山記念館や田邊家住宅(日吉の森庭園美術館)をはじめ、地域のシンボルとなっている歴史的な建物が皆さんの身近な場所にもたくさんあります。このような価値ある建物はまだまだ現役で、非公開となっていることが大半です。区内の貴重な建物を、特別にミズキーと一緒に見にいきましょう。



港北区ミズキー

お願い

「池谷家住宅」と「浅川テラスハウス」は非公開の建物です。建物に住んでいる人もいますので、具体的な場所などについては教えられません。もし見つけても勝手に入ったりせず、そっと見守ってくださいね。

このマークが付いている建物は、**360°** 写真で見ることができます。

港北区ガイドマップVR

検索

または二次元コードから



まずはここ！
遠くから見て
気になっていた人もいるかな？

池谷家住宅(主家)

非公開



池谷さんコメント 大正・昭和と約160年間で二度の大改修を行い、現在まで守り続けてきました。これからもこの場所で保存していきたいです。

江戸時代から南綱島村の名主を代々務めた旧家の邸宅です。1857年の建築で、築161年。幅約50センチメートルもの太い大黒柱と、屋根や軒を支えるはりが建物を支えています。内部は、名主の玄関と呼ばれる役人専用の玄関や、家族も出入りできない来賓用の書院も配置され、当時の名主の家の格式の高さが分かります。現在も、構え堀と呼ばれる堀(水害と防犯用)や穀蔵、江戸時代の民具・農具が保存され、当時の生活様式を感じられます。



広間と大黒柱



縁側の様子

縁側に座していると心地よい風が吹いてきたよ。まちなかにこんなところがあるなんてびっくり！



横浜が開港した頃から綱島には既にまちがあったんだね。実は、戦前の西洋建築も区内に残っているんだよ。

慶應義塾大学日吉チャペル



シザーストラス



チャペル内部の様子



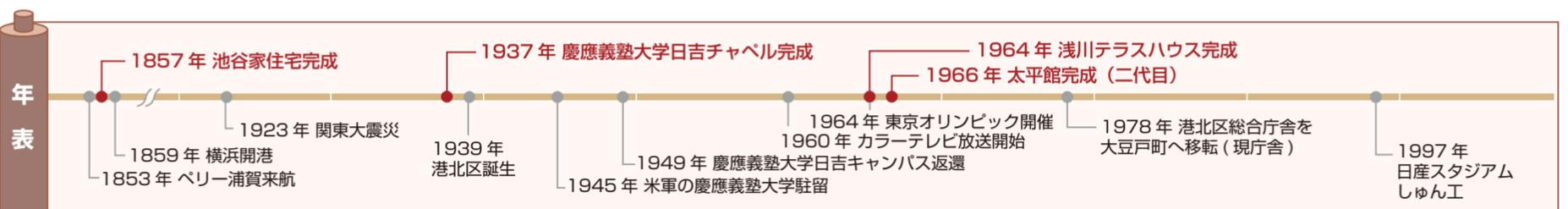
慶應義塾大学キリスト教青年会の創設者らにより、1937年に慶應義塾大学日吉キャンパス敷地内に建築されました。設計はW.M.ヴォーリス。内観は木造のシザーストラス※により、教会らしい天井の高い空間となるよう配慮されています。正面に十字架を取り入れた格子窓があり、窓から射す光と木材の内装により温かみのある空間となっています。

※シザーストラス: はさみのように木材を組み合わせた骨組み

W.M.ヴォーリス(1880年-1964年)

1905年、キリスト教伝道を目的に来日。建築事務所を立ち上げ、全国にYMCA会館や学校、教会などを戦前までに1,500件以上設計。市内に現存する作品は当物件を含め2件。メンソレータム(現:近江兄弟社メンターム)などで有名となった、近江兄弟社グループの創業者でもあります。

●問合せ(チャペルの見学など) YMCA世話人 ☎ 090-7946-7830





区内にはこんな面白い建物もあったよ。

太平館



所在地：大曾根1-25-2 営業時間：15時30分～22時30分 定休日：金曜 TEL：531-0361



脱衣所の様子



大浴場の様子

1966年に建て替えられた温泉施設で、天然ラジウム温泉の黒湯が特徴。温泉の入り口を囲うように左右に建つ店舗が、小さな街を思わせ昭和へタイムスリップしたかのよう。正面ののれんをくぐると、脱衣所から大浴場まで続く高い天井により、明るく開放的な空間になっています。建物内外から昭和の懐かしい雰囲気を味わえます。



たにぐち 番頭の谷口夫妻

これからも皆さんに愛着を持ってもらえる温泉にしていきたいです。



建築探訪の最後はここ！

浅川テラスハウス

非公開



天井まで窓のある室内 (2間を連続使用した状態)



部材を細くし、室内からの開放感を邪魔しない手すり



きくたけきよのり
1964年、菊竹清訓氏の設計で社員寮として建てられました。鉄筋コンクリート造の2階建てですが、木造建築のような開放性を求めて設計されており、当時としては斬新な構造です。6畳3間の部屋を連続して配置し、用途により部屋の広さを変えられるようにしたり、今では普通の、水回りの設備更新を前提とした建築計画としたり、住む人の生活様式の変化を見越した設計となっています。開放性を求め、全面窓やベランダに細い手すりを設けるなど、きめ細かさが随所に見られます。



いしくろただし (石黒唯嗣氏撮影)

菊竹清訓氏 (1928年-2011年)

くろかわきしろう
黒川紀章氏 (国立新美術館を設計)らと共に、社会変化や人口増減に合わせて成長する都市や建築を考案する「メタボリズム」を提唱。代表作は、スカイハウス (自邸) や江戸東京博物館などが挙げられます。



ほさか 建物を案内していただいた保阪さん

たまに建築を学ぶ学生さんが見に来ています。古い建物ですが…価値があるんですね。

「これって価値ある建物かしら」と思ったことはありませんか？ そんなときは…



歴史を生かしたまちづくり相談室

近年、歴史的建造物を取り巻く状況は大きく変化し、所有者の抱える悩みも複雑化・深刻化しています。これらの現状を踏まえ、細やかな支援を行うため、公益社団法人横浜歴史資産調査会 (ヨコハマヘリテージ)*内に「歴史を生かしたまちづくり相談室」が開設されました。主に歴史的建造物の所有者を対象に、専門家や関係団体、行政が連携し、具体的な対応策を提案します。相談は無料なので、気軽にご利用ください。

詳細はホームページへ



*公益社団法人横浜歴史資産調査会 (ヨコハマヘリテージ)
1988年に発足した、歴史的建造物に係る専門家などの団体。市と連携して歴史的建造物の調査や保全活用に関する調査研究のほか、セミナーや見学会などの普及啓発活動を行う

●問合せ 歴史を生かしたまちづくり相談室 ☎・fax 651-1730 (水曜10時～15時)
✉ yh-info@yokohama-heritage.or.jp